



# 熊本みかんの これまじとこれみ

今年の「熊本みかん」の評判はすばらしかった。「県計画」では、成長部門として脚光をあび、各地では樹園地造成にブルドーザーがうなりをあげている。この熊本みかんを、これからどう伸ばしていくべきか…… (写真は東京神田市場にて)

## 生産量四万トンへせまる

### めざましいみかんの栽培熱

県内の果樹栽培面積は、戦時中の作付転換や荒廢のために、昭和二十二年には最小の面積一千二百畝、生産量一万四百畝にまで低下していた。

その後経済の復興とともに、みかんの新植もふえて、昭和三十一年には栽培面積も千九百畝、生産量二万八千三百五十畝までに復興した。

その後生産量も安定して伸び、三十四年には栽培面積三千三百九十二畝、生産量二万七千五百四十七畝に達した。

これは昭和三十一年〜三十三年平均を一〇〇とした場合、面積にして二二六%、生産量で一〇四%の伸びであるが、更に昭和三十六年の実績では、栽培面積四千四百八十一畝(一四六%)、生産量三万八千三百八十八畝(一四五%)というめざましい成長をとげている。

元来、本県の自然立地条件は、気象の関係で、海岸線から八時内外の常緑果樹地帯と、内陸中山間地の落葉果樹地帯、天草島嶼の亜熱帯柑橘地帯、更には内陸中山間地帯の気温の逆転層をねらった柑

橘栽培や河川流域にも集団栽培が見られるようになった。特に暖地の特性をうまく利用して、みかんを主体とした柑橘類の増産がどんどん伸びてきた。

本県の果樹の主体は柑橘であるが、特に温州みかんが最も多い。

みかん栽培には、多額の資本と高度の技術がいるうえに、資本の回収が遅いため、これまでは農業経営にとり入れられることが敬遠される傾向があった。

特にこのことは、零細農の果樹導入上最大の障害となっていたが、昭和三十一年に計画的密植栽培方式によって、植えつけてから出荷できるようになるまでの期間を、うんと短かくする方法が普及されたので、果樹をやるという意欲が次第に高まり、さらに「県計画」では成長部門としての振興対策を強力に打ち出すなどの結果、今や全県的にみかんの栽培熱はたかまつてきた。

生産費の比率は、全国平均の生産費を基礎として、種類ごとの資本効率をみると、夏みかん一四六・三%、ぶどう一〇

九%、みかん五〇・五%、りんご四七・四%となっており、最も悪いのは、なしの七・七%である。

本県果樹の生産費については、確かな調査結果がないので、全国との比較は困難だが、一応のめやすを得るために二、三の資料から算出すると、みかんが一〇四%となり、全国平均の五〇・五%をはるかに上廻っている。

このことは、本県におけるみかん生産の有利性を裏書きするものと言えよう。

生産費を費用項目別にみると、みかんの特質は肥料費と労働費の占める割合が大きく五〇・八%になり、防除費は一〇%程度である。

なし、りんご等は逆に肥料費二二%、一八%で、防除費は二二%、二四%と二倍以上となっている。労働費は、全果樹ほとんど同じで三〇・四〇%程度である。従って、防除費と肥料費の占める割合の相違が、そのまゝコストをひきさげることができるといえる。

ふえてきた選果施設

生産設備の中で、生産の共同化のための「共同防除施設」は県下二十六カ所で、面積にして一〇二畝、「共同灌水施設」は六カ所の三〇畝である。

地域別にこの施設を見ると、主産地の熊飽、玉名は栽培面積の割には施設が少なく、芦北、天草等の新興産地に多い。「動力噴霧器」は一、

「然し全県下の規格が不揃いでは困る。同じ、秀のL、という規格をみても、A農協ものとB農協のものをくら



熊本みかんは、この冬も東京、大阪、北九州方面へと続々と出荷されている。

計画では今年度県外移出目標は一万七千トで、昨年度一万四千トの二〇%増し。しかも正月までには目標を軽く突破して、一〇二%というめざましさだ。

なかでも東京出荷は九千トの目標に対して一〇五%というから嬉しい。この出荷は三月一ぱいは続くのだから、東京出荷一万ト達成もいまひとときというわけだ。

東京での売れ行きも上々。神田青果市場での評判もよい。「熊本みかんは味が濃いので喜ばれる。愛媛や和歌山など以上だ。天草その他の新興産地のものも、たいへんうまい。古くからある産地に負けない」という東印東京青果KKの水島さんや深沢さん。

「熊本みかんははたしかにうまい。よそのは味がうすかったり、スツパかったりでネ。うちではずっと熊本みかんを扱わせてもらってるんだが、小売店でもよく売れている。」とほめてくれる。

ところがそのあとがいけない。「だがネ、皮が厚いのはまだがまんするとしても、な

「この二つの問題については、県でも物産館でも、生産者の方々に強調している。

「この二つの問題については、県でも物産館でも、生産者の方々に強調している。

「この二つの問題については、県でも物産館でも、生産者の方々に強調している。」

「この二つの問題については、県でも物産館でも、生産者の方々に強調している。」

